

GMB株式会社

2022年3月期第2四半期 決算説明資料

証券コード 7214



<https://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関する数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。
また、「親会社株主に帰属する(当期)純利益」を「純利益」として表示しております。



I. 2022年3月期上期実績

II. 2022年3月期通期見通

III. 今後の対応

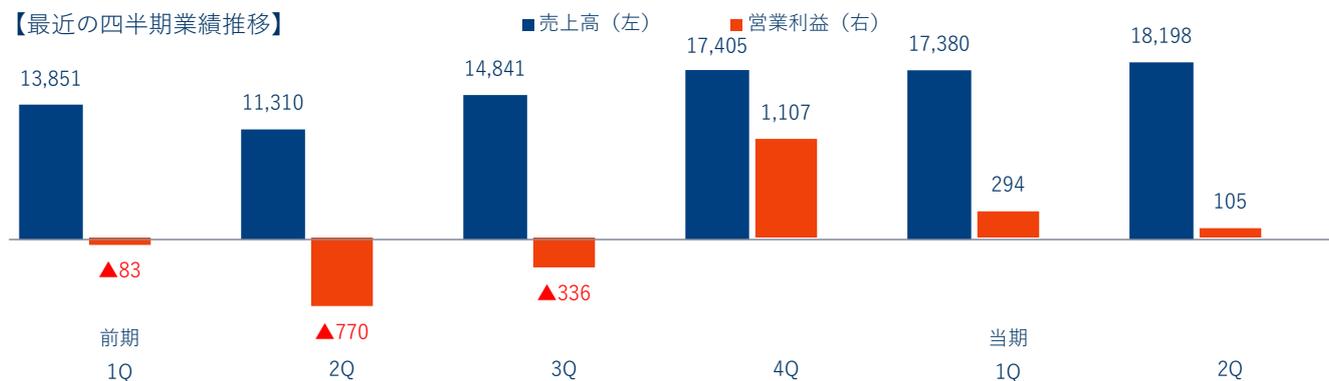
2022年3月期上半期 損益実績



(単位：百万円・%)

	前期1-2Q累計		当期1-2Q累計		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	25,162	(100.0%)	35,578	(100.0%)	10,416	(41.4%)
売上総利益	3,765	(15.0%)	5,808	(16.3%)	2,042	(54.2%)
営業利益	▲854	(▲3.4%)	400	(1.1%)	1,254	(-)
経常利益	▲1,001	(▲4.0%)	733	(2.1%)	1,735	(-)
純利益	▲521	(▲2.1%)	345	(1.0%)	867	(-)
EPS(円)	▲99.54		65.66			

【最近の四半期業績推移】

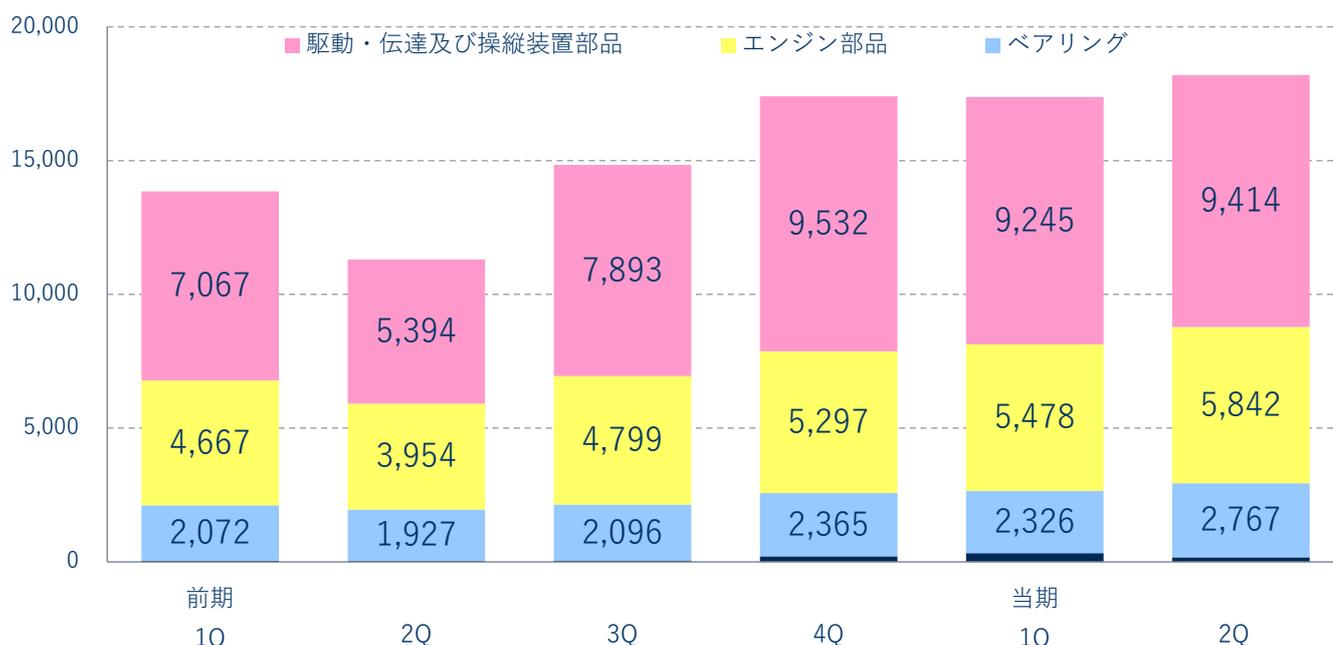


- 3 -

売上高の品目分類別推移 (四半期毎)



(単位：百万円)



全体として、前期2Qを底に販売は回復・増加傾向が続く。駆動系では、主に韓国の新車用のバルブスプールと日本の欧州向け新車用ユニバーサルジョイントが増加。エンジン部品は主に韓国の新車向け電動ウォーターポンプが増加。ベアリングは、補修用のテンショナー・アイドル・ベアリングなどの販売が増加。

- 4 -

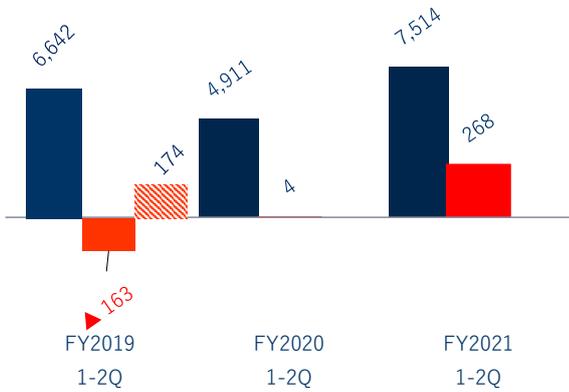
セグメント実績推移① 日本・米国

※セグメントはグループ各社の所在地による

(単位：百万円)

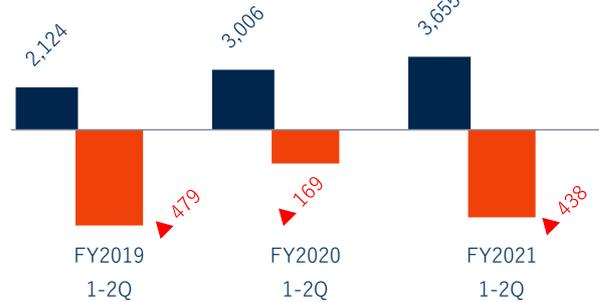
日本

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ▨ 営業利益(※)
※役員退職金を除いた参考値



海外向けの補修用部品販売や、欧州向けの新車用ユニバーサルジョイントが増加したことなどにより増収。利益面は、調達コストの増加や運賃高騰などの収益圧迫要因を販売増加により吸収し、増益。

米国



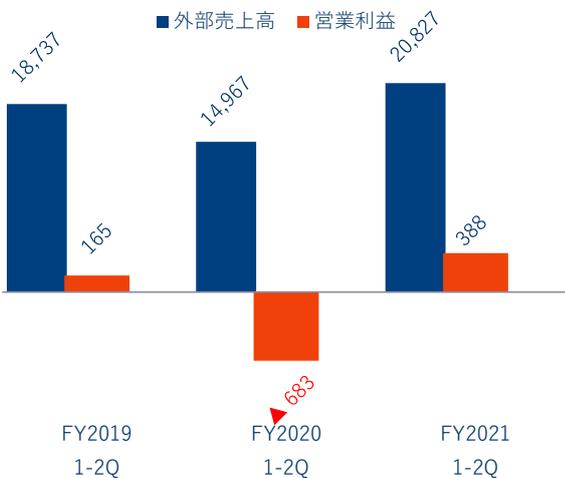
取り扱い商品の拡大などにより販売は増加。一方、輸入関税引き上げによる費用増加などによって減収。

セグメント実績推移② 韓国・中国

(単位：百万円)

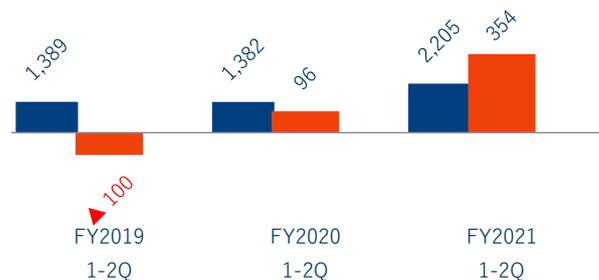
韓国

■ 外部売上高 ■ 営業利益



前期は新型コロナウイルス感染拡大の影響から回復し、主力のバルブスプール等の販売が回復したことに加えて、電動ウォーターポンプの新規売上を上乘せし、増収。販売価格の変動等を販売増加やコストダウン努力で吸収し、黒字回復。

中国



中国国内の景気回復の影響によって新車用バルブスプールや等速ジョイントの販売が増加するなどし、増収増益。

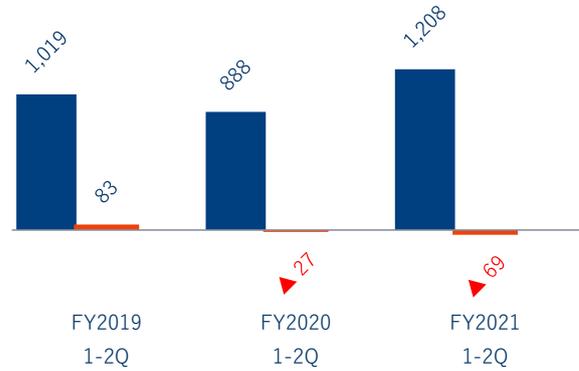
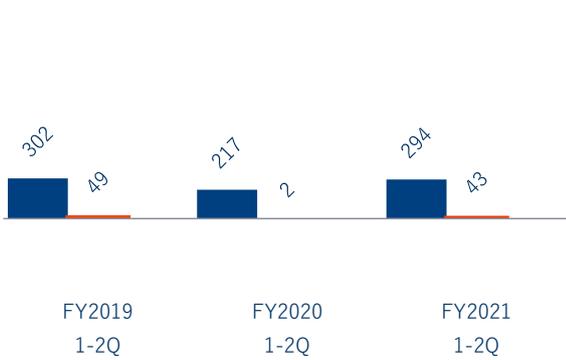
セグメント実績推移③ タイ・欧州

(単位：百万円)

タイ

欧州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



タイ国内販売の増加により増収。また、グループ間のウォーターポンプ等の出荷量が増加したことなどにより増益。

ルーマニア工場は、欧州向けの新車用ウォーターポンプの販売増加により増収だが、主に販売価格の変動により赤字。ロシア工場は移転のためコスト先行。

セグメント実績推移④ 豪州

(単位：百万円)

豪州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、本格稼働中。

営業利益以下の増減要因 (1-2Q)



(単位：百万円)

	前期実績	当期実績	増減額
営業利益	▲854	400	1,254
営業外収益	345	597	252
（うち為替差益）	(171)	(205)	(34) (※1)
（うち持分法投資利益）	(-)	(18)	(18)
（うちデリバティブ評価益）	(-)	(158)	(158) (※1)
（うち貸倒引当金戻入）	(17)	(-)	(▲17)
（うち製品保証引当金戻入）	(2)	(-)	(▲2)
営業外費用	493	265	▲227
（うち金融費用）	(269)	(219)	(▲50)
（うちデリバティブ評価損）	(184)	(-)	(▲184) (※1)
（うち為替差損）	(-)	(-)	(-)
経常利益	▲1,001	733	1,735
特別利益	4	32	28
特別損失	38	8	▲29
（うち減損損失）	(10)	(-)	(▲10)
税引前利益	▲1,035	757	1,793
法人税等	▲157	295	453 (※2)
少数株主持分損益	▲356	116	472 (※2)
四半期純利益	▲521	345	867

※1
金利・通貨スワップ取引による影響を、為替差益とデリバティブ評価損でほぼ相殺

※2
前期は主に韓国子会社赤字の影響

- 9 -

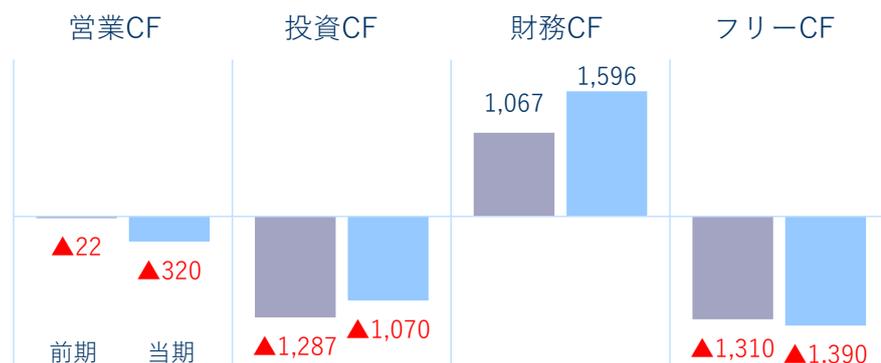
キャッシュ・フローの実績 (1-2Q)



	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	▲22	▲320	▲298
投資活動によるキャッシュフロー	▲1,287	▲1,070	▲217
財務活動によるキャッシュフロー	1,067	1,596	+529
フリーキャッシュフロー	▲1,310	▲1,390	▲80

【 当期の主な内訳 】

● 営業CF	
税金等調整前利益	757 百万円
減価償却費	1,598
売上債権の増加	▲510
たな卸資産の増加	▲1,687
● 投資CF	
設備投資	▲1,963
政府補助金	877
● 財務CF	
借入金の増加	1,848
社債の減少	▲204



- 10 -

I. 2022年3月期上期実績

II. 2022年3月期通期見通

III. 今後の対応

-11-

2022年3月期 損益計画

(単位：百万円・%)

	FY2020	FY2021			
	(通期実績)	(1Q-2Q実績)	(3Q-4Q計画)	(通期計画)	前期比
売上高	57,409 (100.0%)	35,578 (100.0%)	35,422 (100.0%)	71,000 (100.0%)	13,591
営業利益	▲ 83 (▲0.1%)	400 (1.1%)	400 (1.1%)	800 (1.1%)	883
経常利益	▲ 420 (▲0.7%)	733 (2.1%)	167 (0.5%)	900 (1.3%)	1,320
純利益	▲ 315 (▲0.5%)	345 (1.0%)	▲ 245 (▲0.7%)	100 (0.1%)	415
EPS(円)	▲60.05	65.66	-	19.00	

【最近の5年間の業績推移】

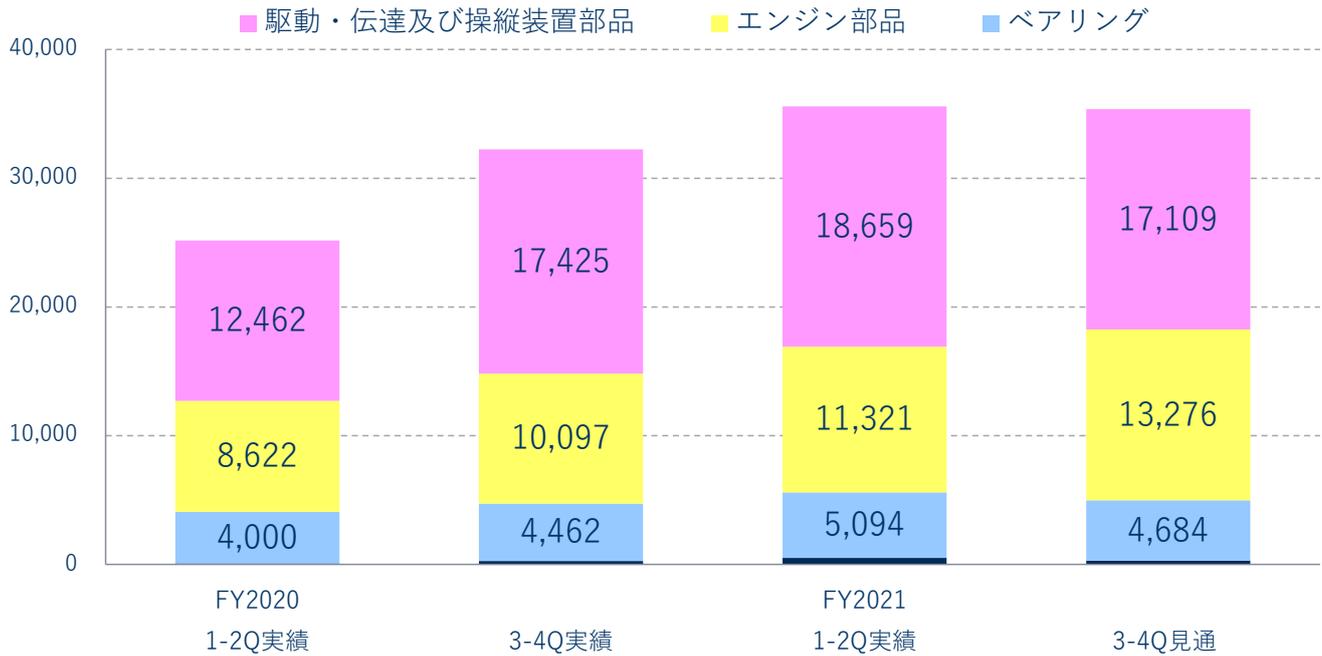


-12-

売上高の品目分類別計画（半期毎）



(単位：百万円)



下期は、駆動系は半導体不足の影響を受けて対上期ではやや減少するも、昨年並みの水準の見込み。エンジン部品は、同じく半導体不足の影響を受けつつも、主に電動ウォーターポンプの増加を計画。

セグメント計画① 日本・米国



※セグメントはグループ各社の所在地による

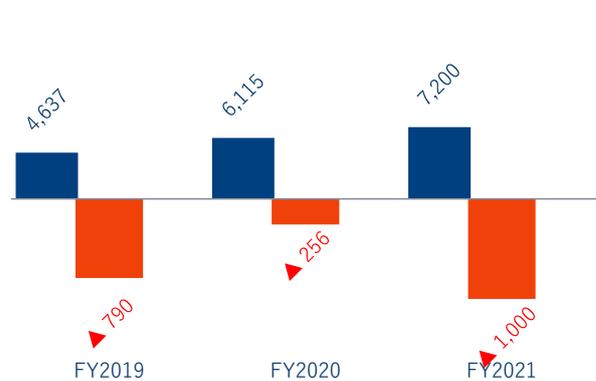
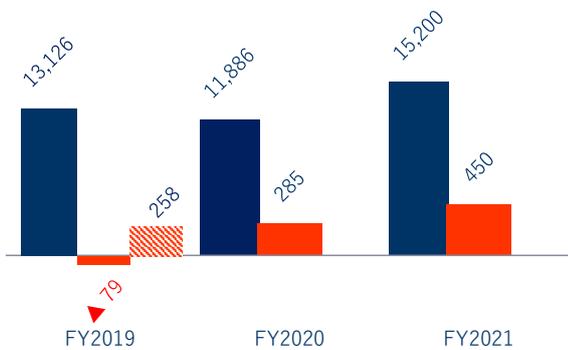
(単位：百万円)

日本

米国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益(※)
※役員退職金を除いた参考値

■ 外部売上高 ■ 営業利益



新車用・補修用ともに堅調な販売を見込み、増収の見通し。世界的な需要回復を背景とした調達コストの上昇や物流費の上昇の影響はあるものの、販売増加で吸収し増益の計画。

取り扱い商品の拡大などにより、増収の見込み。利益面では、対中国の輸入関税や厳しい競争環境に加えて、物流費等のコストアップによって赤字幅拡大の見通し。

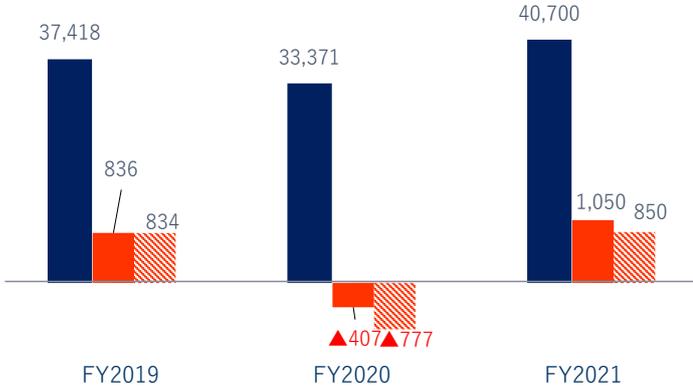
セグメント計画② 韓国・中国

(単位：百万円)

韓国

中国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ▨ 営業利益(※)
 ※退職給付債務の数理計算上の差異を除いた参考値



半導体不足による完成車メーカーの減産の影響を受けるも、電動ウォーターポンプの新規売上が貢献し、2019年を超える売上となり、通期でも黒字回復を見込む。

主に新車用バルブスプールや等速ジョイントの販売が増加し、増収の見通し。販売は増加するものの、調達コストの上昇や、前期発生した公的経営支援等が当期は発生しないため、減益見込み。

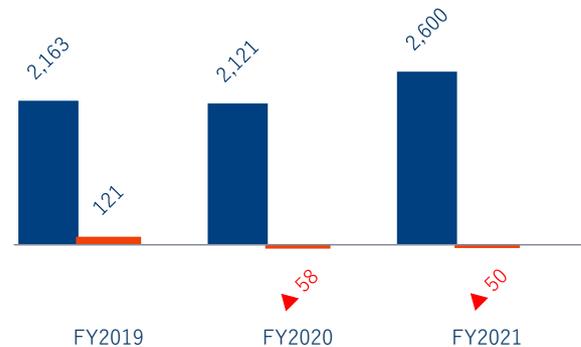
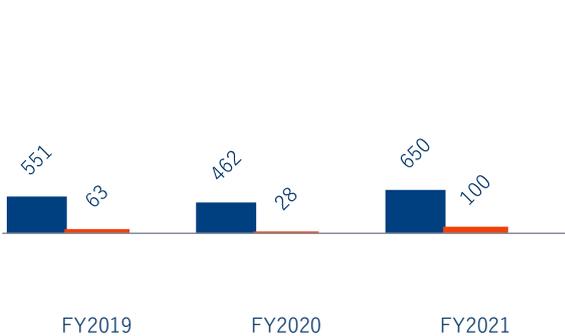
セグメント計画③ タイ・欧州

(単位：百万円)

タイ

欧州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



タイ国内販売の増加により増収。利益面は、調達コストは増加するものの、グループ間のウォーターポンプ等の出荷量が増加したことなどにより吸収し、増益見込み。

ルーマニア工場は、販売増加する一方、販売価格の変動や新工場の償却負担増、調達コスト上昇により赤字見込。ロシア工場は工場移転コストが先行し同様に赤字を見込む。

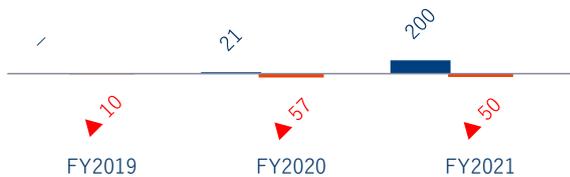
セグメント計画④ 豪州



(単位：百万円)

豪 州

■ 外部売上高 ■ 営業利益

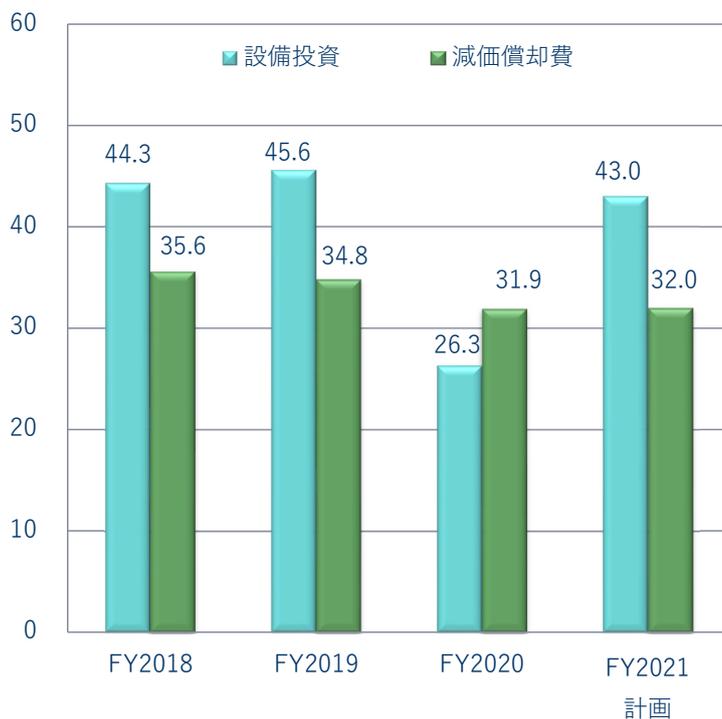


本格稼働開始するも、新型コロナウイルス感染拡大の影響が残る現地で販売活動苦戦。

設備投資・減価償却費



設備投資・減価償却費の推移



FY2021 設備投資計画の内訳

(単位：億円)

	投資額	主な内容
日本	8.0	維持・合理化
韓国	18.0	新規開発・増産等
中国	6.5	維持・更新等
タイ	4.0	維持等
欧州	6.5	増産・移転
計	43.0	

I. 2022年3月期実績

II. 2022年3月期計画

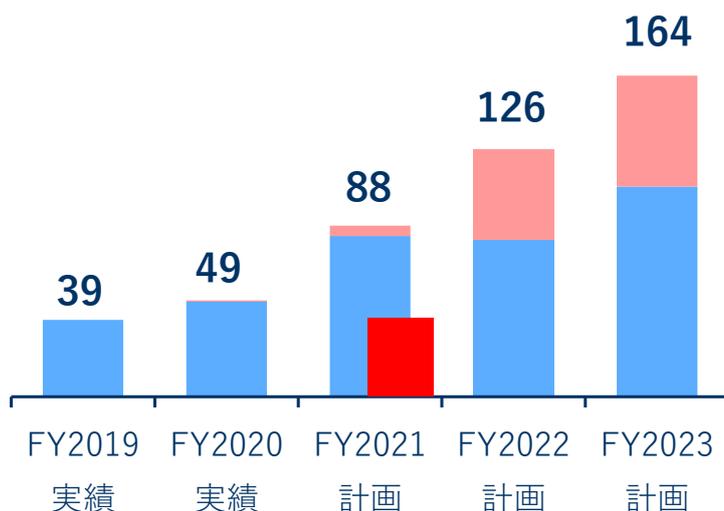
III. 今後の対応

- 19 -

今後の対応① 電動化対応

電動化対応製品の販売実績と計画

■ ITM ■ EWP ■ 2Q実績 単位:億円



▶ 電動ウォーターポンプ(EWP)

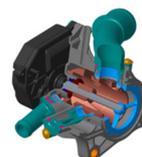
- ・ 受注堅調
- ・ 投資回収フェーズ入り
- ・ 半導体不足影響有

▶ 統合熱管理モジュール(ITM)

- ・ 受注活動本格化
- ・ 生産ライン増設中



EWP



ITM

厳しい外部環境の米国補修用部品市場で米国子会社の再建へ向けた取組

取り巻く環境

- ✓ 厳しい価格競争
- +
- ✓ 高い対中国輸入関税
- ✓ 物流の混乱とコスト増加

対 応

- 中国の協力メーカー製品の活用
 - 売上拡大による利益確保
- 
- 価格転嫁
 - 取扱製品の拡大

ex) バッテリー販売の本格化

- 2021年売上予想 約7百万ドル
- 在庫負担&資金負担なし

閉会

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

<お問い合わせ先>
GMB株式会社 経営企画部
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp